

本稿は、2006年10月13日に関係者向けに通知した資料を簡略にしたものです。

次世代 RTGS プロジェクト通信 第2号

RTGS 
2006年10月16日
日本銀行決済機構局

— 目次 —

1. プロジェクトの現状 (p.1)

- ・仕様等の検討状況や、参考資料等の開示についてお知らせします。

2. 市場慣行の検討状況 (p.2)

- ・短取研や東銀協での検討状況をお伝えします。

〈BOX1〉次世代 RTGS 後の市場取引に関する慣行 (骨子)

〈BOX2〉第1期対応下の決済イメージ

3. お知らせ (p.5)

〈参考〉次世代 RTGS 関連資料

1. プロジェクトの現状

日本銀行では、現在、第1期対応 (流動性節約機能の導入と外為円取引の完全 RTGS 化) に関する日銀ネットの業務要件やシステム仕様の検討・検証を進めています。本通信創刊号でもお知らせしたとおり、年内を目処にこうした仕様等を最終的に確定したうえで、関係者に正式に通知する予定です。なお、プロジェクト全体のスケジュール観については、創刊号でお伝えしたものととくに変更はありません。

(1) 仕様等 (暫定版) へのご意見等

6月に日銀ネットの仕様等 (暫定版) を開示したところ、関係者の方々 (外為円取引に関しては東京銀行協会を取り纏め) から多くのご意見・ご質問が寄せられました。ご意見等を頂いた先には、その都度、日本銀行の考え方を説明し、必要に応じて意見交換を行ってきました。今般、こうしたやりとりのうち、実務的な検討を進めていくうえでお役に立ちそうなものを、別紙『次世代 RTGS (第1期対応) 仕様案 (6月13日版)』に対するコメントおよび回答に取り纏めましたので、ご参照下さい。

こうしたご意見等やこの間の日本銀行での検討を踏まえ、仕様等 (暫定版) の一部を変更しています。「次世代 RTGS (第1期対応) 仕様案」の内容を更新しました。

また、流動性節約機能と入出力電文、取扱い部署の関係を整理した「当座勘定 (同時決済口) 対象取引の事務フロー」 (当座勘定取引先用) および「外為円取引 (同時決済口) の事務フロー」 (外国為替円決済制度加盟行用) を作成しました。

(2) CPU 接続等の概要

CPU 接続については、本通信創刊号で秋頃を目処に概要説明を行う旨お伝えしましたが、近日中に「日本銀行金融ネットワークシステム次世代 RTGS (第1期対応) に関するコンピュータ接続およびファイルアップロード・ダウンロード機能の概要について」を取り纏め、当座勘定取引のオンライン利用先に通知します。

年明けには、仕様書等 (暫定版) を作成し、より広範な情報を開示する予定ですが、2008年入り後にはオンライン接続試験が予定されていることもあり、システム対応等への早期着手に向け、本概要書をご利用頂

ければと思います。

2. 市場慣行の検討状況

短期金融市場取引活性化研究会（短取研）や東京銀行協会（東銀協）を中心に、次世代 RTGS の下での市場慣行の検討が進められています。

(1) 当座勘定取引

短取研は、新たな機能を活用しつつ市場取引を円滑に行っていくため、市場参加者行動のあり方について検討を行っており、この9月には、中間段階の取り纏めを行いました。この中で、基本的な考え方として次の3点を確認しているほか、具体的な検討の方向性を確認するものとして、「次世代 RTGS 後の市場取引に関する慣行（骨子）」（BOX1 を参照）を取り纏めています（いずれも短取研資料からの抜粋）。

- 次世代RTGSでは日銀当座預金に専用口座（当座勘定（同時決済口））が設けられ、流動性節約機能が導入される。当該機能を効果的に活用するには、広範な参加者が専用口座を通じて、市場取引を含めた幅広い大口資金の決済を行うことが望ましい。
- 専用口座で決済が予定されている市場取引、外為円決済取引（第1期対応）および大口内為取引（第2期対応）の中で、市場取引は1件当たりの金額が比較的大きいことが想定される。最終資金繰りへの影響に鑑み、市場取引を迅速且つ優先的に決済することが望ましい。
- RTGSの下での決済の円滑な進捗を図る（＝未決済残高の積み上がりによる決済の進捗遅延を回避する）とともに、システムの安定運行確保の観点からも、指図投入前（典型的には始業時）には、必要な流動性を予め用意しておく（当座勘

定（通常口）から専用口座に所要の流動性を振替えておく）ことが適当。

(2) 外為円取引

東銀協は、外為円取引の取扱いについて、以下のような方向で検討を進めています。

- 外為円取引は、CLS 関連取引を除き、当座勘定（同時決済口）で決済を行う。当座勘定（同時決済口）での外為円取引の入力締切時刻は 14:00 とする。
- 外為円取引には、優先度指定機能の使用を義務付けない。
- 外為円取引の円滑な決済を推進するため、現行の紳士協定に準じた申合せを検討する。具体的には、時点ネット決済の下、日中の指図送信率を評価軸とする現行の申合せから、指図送信率と決済完了率の2つを評価軸とする申合せに変更する方向で検討中。新たな評価軸の位置付け（目標値・参考値）および水準は、総合運転試験を行なったうえで最終的に決定する。

日本銀行は、次世代 RTGS の下で決済の円滑な運営を確保し、流動性節約機能を効果的に活用するには、利用先の適切な決済行動が重要と考えています。関係者の方々には、「決済進捗の確保」、「流動性節約機能の有効活用」、「システムの安定運行の確保」を切り口に、日本銀行がとくに重要と考えている点や論点となりうる点を説明し（概要は本通信創刊号を参照）、検討をお願いしてきました。

〈BOX1〉次世代 RTGS 後の市場取引に関する慣行（骨子）

- (1) 専用口座決済対象とする市場取引
 - ①市場取引については専用口座（当座勘定（同時決済口））で決済を行う。
 - ②上記①市場取引とは、コール取引（無担保コール、有担保コール、日中コール）、NCD 取引などであるが、流動性節約の効果、事務的な負担、取引の将来性等の観点から専用口座の利用が適当でない取引については対象から除外する。除外する具体的な取引の種類については検討を継続する。
- (2) 資金決済と指図投入
 - ①市場取引については、資金決済時限までの間に可能な限り速やかに指図投入を行う。
 - ②資金決済や指図投入の慣行については、現行 RTGS 下で浸透している決済時間帯などの市場慣行の枠組みを念頭に、流動性節約機能の有効活用や円滑な事務処理の観点から、検討を継続する。その際、専用口座の利用時間が 9:00～16:30（通常日）であることにも留意する。
- (3) 返金を前提とした資金放出の取扱い
 - ①市場取引について可能な限り速やかに指図投入を行なうという原則の下で、返金を前提とした資金放出については、着金に代えて、待ち行列に返金の指図が待機した段階で指図投入する取扱いとする。待ち行列に待機することなく、即座に着金した場合は、着金後速やかに指図投入を行なう。
- (4) 指図投入の取消
 - ①正しく投入された支払指図については取り消さない。
 - ②取消時の取扱い（相手への連絡の要否等）については、上記「正しく投入された支払指図については取り消さない。」という慣行を前提とした上で、事務処理の影響等の観点も踏まえ検討を継続する。
- (5) 「優先」指定対象とする市場取引
 - ①市場取引について、できるだけ返済の優先度合いを高めるとともに、待ち行列での待機状況の確認を容易とするため、コール取引（無担保コール、有担保コール、日中コール）を「優先」指定とする。コール取引の中で「優先」指定対象を更に絞り込むこと等については優先度指定機能の効率的活用の観点から検討を継続する。
 - ②コール取引以外の市場取引等については、仕向先（支払側）の判断により「優先」指定することを妨げない。
- (6) 専用口座における流動性の確保
 - ①過度な流動性節約行動に伴う「すくみ」を回避すべく、各参加者は指図投入に先立ち（始業時など）所要の流動性を専用口座（当座勘定（同時決済口））に確保するが、その水準については、外為円決済も含めた総合運転試験等を通じて見極めていく。

検討が進められている市場慣行案は、これらの点を網羅したものとなっています。こうした市場慣行案に従って、適正な流動性の確保や決済進捗の管理が行われることを前提とすると、「システムの安定運行の確

保」の観点からは、市場慣行面で追加的な検討をお願いする可能性は小さいと考えています。このため、短取研、東銀協には、現行の検討方針に沿って、今後の検討課題としている事項も含め、更なる具体化をお

願っているところです。その際、それぞれの検討内容に漏れや齟齬がないかという観点から、緊密な連携をお願いできればと思っています。

今回、これまでにご紹介した市場慣行を巡

る議論にもとづき、次世代 RTGS（第 1 期対応）の決済イメージをシミュレーションした結果を BOX2 にお示しします。より詳細な市場慣行や事務処理体制を検討する際の参考にして頂ければと思います。

〈BOX2〉 第 1 期対応下の決済イメージ

本年 9 月第 2 週の決済記録をもとに、第 1 期対応における当座勘定（同時決済口）の対象取引（当座勘定取引および外為円取引）についてシミュレーションを行い、初期流動性水準（日銀当座預金と日中当座貸越の合計）と決済時間の関係を検証しました。

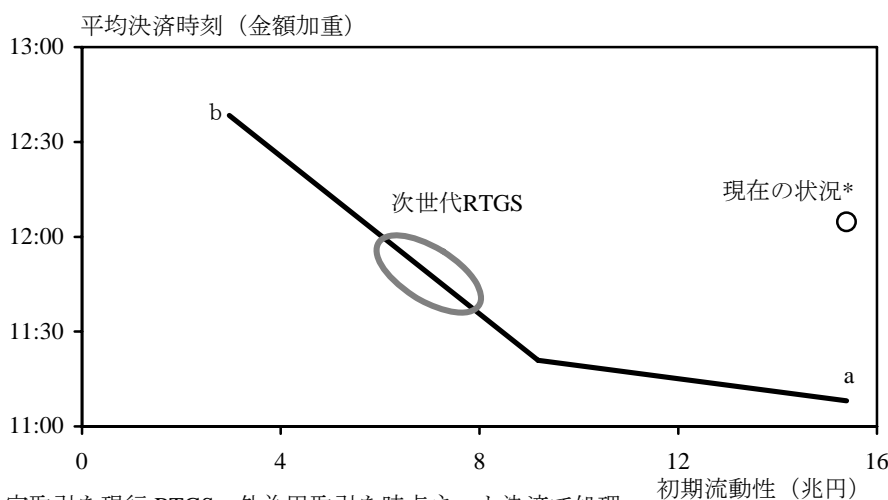
図中の点および線の意味は次のとおりです。

- 曲線 a-b：流動性節約機能付 RTGS の下で必要となる初期流動性の総量と、決済時間の組合せ。
- 点 a：各利用先が、待ち行列に待機させることなく決済を進めるために必要な流動性を、予め確保しているケース。
- 点 b：各利用先が、当日の払い超額に相当する流動性を予め確保しているケース。
- 「次世代 RTGS」：現行 RTGS の下での当座勘定取引の平均決済時刻と同程度の

決済時刻と、これに対応する、流動性節約機能付 RTGS の下で必要となる初期流動性の総量との組合せ。

シミュレーション結果からは、対象取引の決済に必要な初期流動性を現在（15兆円程度）の半分とした場合（9時台における利用先ごとの払い超額の合計に相当）でも、現行RTGSの下での当座勘定取引の平均決済時刻（金額加重）を実現することが展望できます。その際、待ち行列での平均待機時間（金額加重）は、当座勘定取引が約30分、外為円取引が約20分となっています。

なお、上記のシミュレーション結果は、現行の支払指図の送信タイミングに基づくものです。支払指図の送信タイミングが早まれば、同額の初期流動性であっても、決済時間や待機時間を短縮することが展望できます（曲線a-bが下方に移動するイメージ）。



* 当座勘定取引を現行 RTGS、外為円取引を時点ネット決済で処理するために要している初期流動性の総量と、決済時間の組合せ。

3. お知らせ

先月、「日本銀行当座預金決済の新展開 ― 次世代 RTGS 構想の実現に向けて ―」および「量的緩和政策解除後の日銀当座預金決済」を公表しました。前者は、次世代 RTGS の概要および期待される効果を整理した解説資料です。後者は、量的緩和政策解除後の現行 RTGS の決済動向を分析したものです。決済用資金の確保や決済進捗の管理といった考え方は、次世代 RTGS にも通じるものです。いずれの資料も日本銀行ホームページ (www.boj.or.jp) でご覧になれますので、ご一読頂ければと思います。

<参考>次世代 RTGS 関連資料

日本銀行決済機構局「日本銀行当座預金決済の新展開 ― 次世代 RTGS 構想の実現に向けて ―」日本銀行調査季報 (2006年9月)

今久保圭、千田英継「量的緩和政策解除後の日銀当座預金決済」日銀レビュー 06-J-16 (2006年9月)

今久保圭「修正 RTGS 方式の経済効果」、「効率的な日中流動性の考え方」『決済システムレポート 2005』日本銀行 (2006年3月)

千田英継「日本銀行当座預金決済における次世代 RTGS の展開の概要」日本証券業協会 証券決済制度改革推進フォーラム 2006 (2006年2月)

日本銀行「日本銀行当座預金決済における次世代 RTGS の展開 ― 関係者のご意見を踏まえて ―」(2006年2月)

日本銀行「日本銀行当座預金決済における次世代 RTGS の展開」(2005年11月)

全国銀行協会「大口決済システムの構築等資金決済システムの再編について」(2004年3月)

日本銀行決済機構局「次世代 RTGS プロジェクト通信 創刊号」(2006年6月)

「次世代 RTGS（第 1 期対応）仕様案（6 月 13 日版）」に対するコメントおよび回答

* 本稿で使用されている用語等の定義は、「次世代 RTGS（第 1 期対応）仕様案（10 月 13 日版）」に則っています。

項目	コメント	回答
当座勘定取引先用		
第 1 編 1 流動性節約機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 流動性節約機能付 RTGS の下では、決済進捗が現行 RTGS 対比遅れることを懸念しており、これを回避するために、以下の内容を検討してもらいたい。 <ul style="list-style-type: none"> - 決済効率を考慮した待ち行列の容量、決済処理にかかる設計。 - 日本銀行による決済進捗のモニタリング、市場慣行遵守の指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 流動性節約機能付 RTGS においても、現行 RTGS と同様に流動性を確保していれば、支払指図の送信時に即座に決済を完了することができ、現行 RTGS 対比決済が遅延することはありません。 <p>なお、日本銀行としては、決済効率を高める観点から、待ち行列の容量等について検討を進めてきました。円滑な決済を確保するという観点からは、望ましい流動性の調達や決済の進捗が実現されるよう、市場関係者に対し積極的に働きかけを行っていきたいと思います。</p>
第 1 編 2 複数指図同時決済機能の処理手順	<ul style="list-style-type: none"> ● 多者間同時決済機能の処理について、「多者間同時決済処理完了通知」だけではなく、その開始通知も送信する仕様にできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多者間同時決済機能の起動時刻は予め周知することを想定しているため、開始通知は不要と考えています（現行の同時処理と同じイメージ）。

項目	コメント	回答
第1編3 決済口座	<ul style="list-style-type: none"> ● 誤って当座勘定（同時決済口）の非利用先宛に当座勘定（同時決済口）の支払指図を送信した場合にはエラーとなるのか。 ● 事務負担およびシステム開発負担を極小化するために、当座勘定（同時決済口）の利用先/非利用先情報の開示、当座勘定（同時決済口）/当座勘定（通常口）の使い分けのルールが必要ではないか。 ● 待ち行列に待機指図がある状況で「自己勘定間振替（同時決済口→通常口）」を入力した場合、待機指図より優先して処理されるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● そのとおりです。 ● 当座勘定（同時決済口）の利用先は、「日銀ネット利用細則」等を通じて周知することを考えています。 当座勘定（同時決済口）/当座勘定（通常口）の使い分けのルールは、当座勘定取引については短期金融市場取引活性化研究会、外為円取引については東京銀行協会での検討をサポートしていきたいと思えます。 ● そのとおりです。
第1編5 優先度指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 相手先へ優先指定情報を開示することにより、入力元における決済効率を考えた優先順位付けを難しくする可能性はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 優先度指定は、主に市場慣行等にもとづき、特定の支払指図に対して設定する運用を想定しています。そうした市場慣行の遵守状況等を確認する意味でも、相手先への情報開示は有効ではないかと考えています。

項目	コメント	回答
第1編8 自動取消 第1編9 自動振替	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動取消や自動振替を利用することを前提とした事務フローを組むことは差し支えないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動取消は、利用先の便宜を図るためではなく、当座勘定（同時決済口）での終業処理が円滑に行われることを確保するために導入するものです。日本銀行では、利用先が所要の流動性を確保し、自動取消処理が起動する時点では、決済が完了していること（自動取消の対象となる待機指図が無いこと）を想定しています（16:30までの利用を妨げるものではありません）。 一方、自動振替は、当座勘定（通常口）および当座勘定（ITC口）での決済に支障が出ないのであれば、その利用を前提とした事務フローを検討して頂いても差し支えありません。当座勘定（同時決済口）では、当座勘定（ITC口）と異なり、入力締切時刻までに必ず残高をゼロにする必要はありません。 なお、入力締切時刻が延長された場合には、自動取消および自動振替の時刻も延長されます。
第1編10 利用時間	<ul style="list-style-type: none"> ● 多者間同時決済機能の処理中の電文送信について、何か制約があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多者間同時決済機能の処理中は、支払指図、取消、待機順序変更、自己勘定間振替、一部の照会（「受払明細一覧（決済未了分）」）の入力はできません（入力した場合はエラーとなります）。
第1編13 コンピュータ接続等	<ul style="list-style-type: none"> ● 当座勘定（同時決済口）のために新設する入出力電文について、コンピュータ接続の対象電文は、次期日銀ネット端末の対象電文と同じであることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 当座勘定（同時決済口）のために新設する入出力電文は、コンピュータ接続であっても、次期日銀ネット端末であっても、利用可能です。

項目	コメント	回答
<p>第2編1 当座勘定取引にかかる 入出力電文（新設分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 当座勘定（同時決済口）のために新設する入出力電文は、次期日銀ネット端末のファイルアップロード・ダウンロード機能でも利用できるか。 ● 複数指図同時決済が成功した際の当座勘定（同時決済口）振替済通知と同入金通知の送信順について、振替済通知が先に送信されると、自社システムによる残高確認にて赤残（エラー）と認識してしまう。常に「入金通知→振替済通知」の順に送信する仕様にはできないか。 ● ある支払指図が待ち行列に待機した後、決済される場合、常に「待機通知→決済済通知」の順に送信されるのか。 ● 優先度が変更されない場合であっても、待機順序変更通知を相手先へ出力する仕様にはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用できます。 ● 常に「入金通知→振替済通知」の順に送信する仕様とすることは困難です（現行RTGSにおいても、こうした順序性は保証されていません）。例えば、当座勘定取引通番の順に並び替えたうえで残高確認を行って下さい（センターでは、常に、「入金処理→引落処理」の順に当座勘定取引通番を付番します）。 ● 原則としてそのとおりです。ただし、支払指図が待機した直後に決済された場合には、待機通知と決済済通知の送信順が逆転することがあります。 ● 待機通知には待機順の情報は含まれていないため、待機通知の情報が更新されるのは、優先度が変更された場合、決済された場合、取り消された場合に限られます。このため、優先度変更を伴わない待機順序変更通知は必要ないと考えています。
<p>第2編2 当座勘定取引にかかる 照会機能等（新設分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 照会結果を画面上で閲覧することができるのか。 ● 「受払明細一覧」の照会結果の出力順について、待ち行列の待機順か相手先の金融機関等コード順かを選択する仕様にはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期日銀ネット端末では、照会結果を画面上で閲覧できるほか、必要に応じて印刷することも可能です。 ● 照会結果の出力順については、決済未了分の場合、払出は入力元の待ち行列待機順、受入は相手先の金融機関等コード順ごとに当該先の待ち行列での待機順に従って出力できます。なお、取引種別、相手先、優先度を指定することも可能です。

項目	コメント	回答
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「受払明細一覧」の入力電文にて、「受払区分」を空欄とすることで、同一時点の受入と払出の両方を照会することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 受入か払出のいずれかを指定する必要があります。
外国為替円決済制度加盟行用		
<p>第2編4 外為円取引にかかる入出力電文（新設分・既存分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 外為部署が送信した支払指図を資金部署が閲覧することはできるのか。 ● 外為部署では、委託行向け日中与信管理を行うこともあり、資金部署のみならず外為部署でも待機通知を受信できる仕様とすることが望ましい。 ● 外為部署に送信される外為円取引（同時決済口）の決済通知と待機通知の見た目が似通っており、取り違える惧れがあるため、デザインを工夫することが望ましい。 ● 待機順序変更の入出力電文は、当座勘定取引と外為円取引で違いがあるのか。 ● 支払指図の待機順序を変更し、通常指定が優先指定に変更された場合、外為部署に待機順序変更通知は送信されるのか。 ● 取消の入力画面で指定する受付番号は「RECEIPT NO (SENDING BK)」でよいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外為円取引（同時決済口）の支払指図が決済されると、資金部署には、「当座勘定（同時決済口）引落通知（外国為替円支払指図）」または「同入金通知」を送信します。また、待ち行列に待機した場合には、「待機通知（外国為替円支払指図）」を送信します。 ● 待機通知は、資金部署、外為部署の双方に送信します。 ● ご要望に沿って外為円取引（同時決済口）の待機通知のデザインを変更します。 ● 待機順序変更に当たっては、当座勘定取引、外為円取引とも同一の入力電文を利用します。また、出力電文は一部の項目名称（振替依頼人→仕向行など）を除き同一とします。なお、入出力電文とも、資金部署のみ利用可とすることを想定しています。 ● 外為部署に待機順序変更通知を送信することは想定していません。外為部署では、照会機能を利用することにより、優先度を確認することができます。 ● そのとおりです。

項目	コメント	回答
	<ul style="list-style-type: none"> ● 外為円取引（通常口）の決済済通知にて、「PROCESSING NO」欄には外為円取引通番（外為円取引（通常口）に関する通番）が表示されるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● そのとおりです。
<p>第2編5 外為円取引にかかる照会機能等（新設分・既存分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 支払指図の送信に関する申合せの遵守状況をモニタリングするため、「外国為替円支払指図時間別入力状況」は、日々、支払指図入力ベースと決済完了ベースの2種類提供されることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご要望に沿って同入力状況を提供します。

以上